

## 1 目的

### (1) キクの生産性向上技術の検討

枕崎市大塚地区は全国的にも規模の大きいキク農家が集まった団地であり、キクの周年栽培が行われている。高齢化や後継者不足等により、生産者数が減少傾向にある。長年、白輪ギクの生産が盛んであったが、コロナ禍で業務用に使われる輪ギク需要の低下や、燃油や肥料などの生産コストの上昇が続いている。また、温暖化の影響で夏期の高温による開花遅延や奇形花の発生が課題となっていた。

夏期の高温による奇形花の発生は、秀品率及び可販収量を低下させている大きな要因であり、省力化技術を活用した高温対策の検討も併せて取り組む必要があった。

## 2 実施状況

### (1)大塚周年菊研究会活動内容

当研究会員は現在 20～40 代までの若き生産者 9 名で、テーマを決めて毎月の定例会及び現地検討会を行った。

### (2)夏の高温対策検討、実証ほの実施

これまでの高温対策として、ハウスの屋根に上って人力で遮熱剤散布に取り組んだことなどがあつたが、危険な作業であり、労力がかかった。そこで、ドローンでハウス屋根面に遮熱剤を散布する省力化技術を検討することにした。周年菊研究会会員のハウス6カ所で、ドローンによる遮熱剤のハウス屋根面への散布試験を実施した。ドローンで行うことで屋根に上って人が行うよりムラなく散布することができ、作業時間も短縮された。

処理後のハウス内は、また、無処理より屋温の上昇を平均気温で 0.5℃、最高気温で 1.6℃低く抑えることができた。サーモ写真からハウス内、キクの成長点付近の温度が低いことが分かった(写真2)。奇形花の発生軽減効果は、生産者間で差があり、一部では効果が認められたものの、一部では低く抑制できなかった。夜温(最低気温)を下げることができず、高夜温が続いたことや各生産者で異なった他の遮熱管理が影響したと考えられた。



写真1 ドローンによる遮熱剤散布の様子

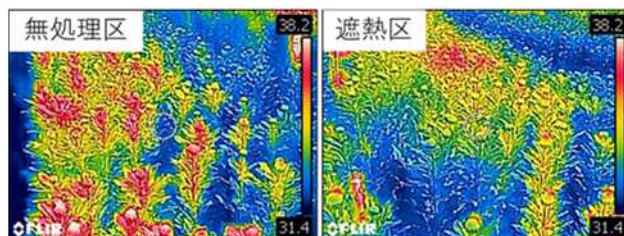


写真2 輪ギクの実証中のサーモ写真

### (3)高温抑制対策,スマート農業実証実績の産地波及

大塚生産者協会の研修会において、実証結果について報告を行い、高温対策推進を図った。

また、実証期間中には大塚花き生産者協会の会員と現地検討会を実施し、温度や生育状況について検討した。

無処理のハウスと比較して、体感温度が低く、摘蕾などのハウス内作業がしやすかったという意見が出た。しかし、コストが高く補助事業なしでの導入は困難であるとの意見もあった。



写真3 スマートフラワー現地検討会の様子

## 3 今後の課題、取り組み

(1) 低コスト資材を活用した高温対策の検討

(2) 新たな産地課題解決に向けたプロジェクト活動の実施